
暗 殺 チ ー ム

ミナカミツカナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暗 殺 チ ー ム

【Nコード】

N 4 5 0 9 A

【作者名】

ミナカミツカナ

【あらすじ】

二つは、暗殺チームで創り出された、ものだった。一つは、「ゴールドムーン」と呼ばれ、一つは改造作品レッドスレッズと呼ばれた。二人は、感情を覚え、やがて上に向かって、反論し、戦うようになる。

プロローグ

満月と、赤い星の在る空。

二つの影が動く。

二つは、別々に動き、別々にこの世から人を消す。

二つの影は、用を果たすと、また、別々に消えていく。

二人は同じ。

だが、違う。

一つは、満月のように光る眼を持つ。

一つは、赤い星のように光る眼を持つ。

一つは、暗殺チームのもだった。

一つは、暗殺のために創られたものだった。

一つは、13歳の男であり、赤色の髪をしていた。

一つは、13歳の女であり、金色の髪をしていた。

一つは、小さな、でも、時には大きく見える、月のマークがついた銃を持っていた。

一つは、体を改造して、大きな刃・高速の足・電気が流れるムチを造りだしていた。

二つは、人を殺すために創られた、ただのものであった。

プ ロ ロ ー ゲ (後書き)

く~~~~~！ 下手な小説！！これからがんばります！

お気楽

「うが・・・っ」

悲鳴？ いや、叫び？ 何でもいいや。

少年はそう思った。

彼は水岸悟^{みなぎしさとる}13歳。（通称・彼）

殺し屋だ。

彼の見かけは、カッコいいようだが、服には血が飛び散っている。

殺し屋だからしょうがない。

ともいえないが。

彼は普段、学校（といっても、月に1回）行っている。

彼は、成績優秀・スポーツ万能のすごすご少年だ。きつと。

彼の楽しみは、殺し。

銃を使った。

はずだったが。

「あつ、3時じゃねーか！ いそがねーと！」

彼は、早足に家へ行った。

そして、血まみれの服から、普段着に着替え、キャップをかぶった。ポケットには、大量のお札とキャッシュカード（お札3枚以外は全て偽物）が入った、財布・黒い携帯・そして、銃。月のマーク入りの。

「わ——！ ゴメンツ！ズガッ?!」

コケた。

「遅いつ・遅いつ・遅いつ!!! 30分の遅刻！ またやったの？ アレ」
そんな彼も気にせず言う。

「おお、まあな！ アリ？ チビっちは？」

「失礼ね。というより、アナタにチビとは言われたくはないわ」

突如、後ろ（でも、低い位置）から聞こえた少女の声。

そこには三つのソフトクリームをもった少女・彼女なりかわときあは成川兎黄亜13歳（通称・少女）がいた。

そして、先ほど、彼に説教？した彼女・成川由黄亜13歳なりかわゆきあ。（通称・彼女）

二人は、双子であつた。

しかし、性格が丸反対の。

少女はプライドが高い。

彼女は気まぐれなヤツ。

そして、彼は二人が混ざつたようなヤツ。

そして、彼がいつもこの時間を楽しみにしているわけは・・・。

「はい、ソフトクリーム。バナラでいいでしょ？」

コレ、食べ物だ。行くと必ずもらえる。

「おうっ、サンキュー！チビっち」

ぱしっ、と少女は彼から、ソフトクリームを取り上げる。

「ああ！なにすんだよお！！」

彼は子供みたいに、頬を膨らます。

「なによっ！アナタが悪いのっ！ドチビ！」

「なに！？オマエのほうがちびじゃねーか！この・・・チビチビチビチビ！！」

「あたしのとつちゃ、二人とも小さいけどね。というか、変なこと

で喧嘩しないでよ」

「うっ」

「あうっ」

二人は、言葉を失う。

確かに二人より、彼女のほうがセンチほど大きい。

双子でも、身長之差は有った。

「ねっ、だから、はやくいこうっ！無くなっちゃうよ、本」

彼女が行きたがっているのは、

「あそこは、いっぱいあるから大丈夫なんじゃない？」

「それもそうだね。ほら、ソフトクリーム返して、行こうか！」

少女は、渋々とソフトクリームを返す。

彼は待ち望んだソフトクリームが返ってきたので、眼を輝かせた。

「今度また言ったら、叩きのめすから。いいでしょ？姉さん」

と言う、言葉と一緒に。

それに、彼女は

「それは、悟しただね」

といった。

「えっ！？何勝手に話し進めてんだよ！つか、オマエ何気なく了

承しただろっ！由黄亜！」

「うん」

「うん——じゃねーんだぶごぶごぶごぶごぶごぶ」・・・」

「ねえさん、行きましょう」

少女はにつこり、笑い言う。

「あら、ロープ、必十品だっけ？」

彼女は首をおかしげる。

「姉さん、それはあたしです。ホラどチビ、行くよ」

「ドチビゆーな！」

「じゃあ、チビ助」

「そーゆー意味じゃねー！」

「五月蠅い」

ボカツ、と背中を蹴られた彼は、まもなく気を失うことになった。

お気楽（後書き）

名前が書いていないのは、大変だからです。特に双子。了承してください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4509a/>

暗 殺 チ ー ム

2010年10月26日04時37分発行